

# 「ちばの系統豚」情報

## 2010年 12月

千葉県畜産総合研究センター 養豚養鶏研究室

### 新規系統造成豚の改良目標値決まる

平成22年9月17日に行われた平成22年度千葉県種豚選定検討会におきまして新規系統造成豚の改良目標値が決定しました。改良目標値は、表1の5項目です。生存産子数はメ



写真 系統造成豚の生時と3週齢時の子豚

ス系の品種では最も重要な形質ですが、遺伝率が低いので改良されにくい形質でもあります。そのため、1頭に満たない0.6頭の改良となっています。発育などの産肉形質は、比較的遺伝率が高く改良できる形質ですので、1日平均増体量は、雄雌とも1000gを越える目標値に設定しました。肢蹄の強健性については、ボウソウL3と同様に内側蹄と外側蹄の接地面積のそろいを見た、内外蹄比

率としました。また、今回本県では初めて改良形質に3週齢1腹総体重を加えました。これにより、母豚の泌乳能力や子豚の発育の改良が期待できます。

表1 新規系統造成豚の改良目標値

	選抜形質	改良目標	現在の能力	
			基礎豚(初産)	ボウソウL3
①	生存産子数(頭)	10.0	9.4	9.9
②	3週齢1腹総体重(kg)	70.0	57.7	55.4
③	1日平均増体量(g) 30~90kg	♂ 1100 ♀ 1010	♂ 940 ♀ 885	♂ 934 ♀ 844
④	飼料要求率	2.9	*: 3.0	—
⑤	内外蹄比率(%)	80以上	*: ♂80.7 ♀80.4	80以上

\* : 1世代目の能力 (60~90kg)

## 新規系統造成 第1世代豚の産肉成績と選抜豚の紹介

系統豚「ボウソウL3」の後継として新たな豚の改良が始まり、3月から5月にかけて第1世代の子豚を生産しました。その中から、雄39頭、雌96頭を次世代の候補種豚として育成し、産肉能力を測定しました。その成績は表2のとおりです。なお、ボウソウL3の最終世代の成績を参考に載せてあります。

表2 第1世代豚の産肉成績(30~90kg)

項目	到達日齢 (日)	1日平均増体量		スキャナーの値(体長1/2)		
		生時-90kg (g)	30-90kg (g)	背脂肪厚 (cm)	ロース断面積 (cm <sup>2</sup> )	
雄	第1世代	133.0	689.2	944.0	1.6	31.0
	ボウソウL3	132.8	684.4	933.9	1.7	32.7
雌	第1世代	137.2	669.0	883.9	1.7	33.3
	ボウソウL3	140.0	646.8	843.7	1.9	33.7

結果は、90kg 到達日齢が雄で133日、30kgからの1日平均増体量が944gと、ボウソウL3の認定時とほぼ同じでした。雌では90kg 到達日齢が137.2日、30kgからの1日平均増体量が883.9gで、ボウソウL3の認定時より日数で3日、増体量で約40g良好な値でした。

背脂肪の厚さは雄で、1.6cm、ロース断面積が31.0cm<sup>2</sup>で、ボウソウL3の認定時に比べ、背脂肪はほぼ同等でしたが、ロース断面積はやや小さく、雌では、背脂肪の厚さが1.7cm、ロース断面積が33.3cm<sup>2</sup>で、ボウソウL3の認定時に比べ、背脂肪は約0.2cm薄く、ロース断面積はほぼ同等でした。

この中から、10月中旬までに、母豚の繁殖成績、候補種豚の産肉成績、体型、肢蹄の強健性を考慮して、雄12頭、雌57頭を選抜しました。選抜豚の産肉能力の平均値は、表3のとおりです。

表3 第1世代の選抜豚の産肉成績(30~90kg)

項目	到達日齢 (日)	1日平均増体量		スキャナーの値(体長1/2)	
		生時-90kg (g)	30-90kg (g)	背脂肪厚 (cm)	ロース断面積 (cm <sup>2</sup> )
雄	124.2	736.0	1029.0	1.7	31.9
雌	133.7	683.8	901.7	1.7	33.3

雄では、1日平均増体量が1000gを越え、今後の改良が期待できます。今年は、11月9日から約2ヶ月間に第1世代の選抜豚同士で交配を行い、第2世代を生産します。分娩は3月1日から始まる予定です。

## 系統造成第1世代（種雄豚）の紹介



1952(富士農場サービス×L3米)



1956(ガッサン×おおいた L07)



1968(ガッサン×輸入豚)



1971(ガッサン×輸入豚)



2002(フクシマ L2×L3米)



2009(フクシマ L×おおいた L07)



2014(富士農場サービス×L3米)



2019(富士農場サービス×L3米)



2041(輸入精液×輸入豚)



2055(L3米×輸入豚)



2063(輸入精液×輸入豚)



2070(輸入精液×輸入豚)

いずれも、スケールを感じる体型をした特徴のある種豚です。次世代への改良効果が大いに期待できると思われます。

※血統について:父×母で記載。ガッサン:山形県系統豚、フクシマ L2:福島県系統豚、おおいた 07:大分県系統豚、富士農場サービス:精液を利用、L3米:ボウソウ L3に米国の輸入精液で生産した産子、輸入豚:H21年度米国からの輸入豚

## 平成22年度千葉県豚共進会が開催されました！

### <肉豚の部>

10月19、20、21日の3日間で行われ、第1類(2頭組)は78組156頭、第2類(8頭組)は20組160頭で、全体で316頭の出品がありました。



第1類名誉賞(肉豚):NO.50 渡辺栄樹さん

第2類名誉賞(肉豚):NO.5 内山利之さん

第1類名誉賞は旭市の渡辺栄樹さんで、雌・去勢とも76.5kg、バランスも良く、しまりのある枝肉でした。枝肉のカット面でも、ローズ芯も大きく、肉質のしまり・肉量ともすばらしい枝肉でした。

第2類名誉賞は多古町の内山利之さんで、8頭すべて上物で、比較審査においても、斉一性のある枝肉形状であり、カット面・外観等すばらしい枝肉でした。

### <種豚の部>

10月26、27日の2日間で行われ、第1部28頭、第4部(F1繁殖豚、2頭組)5組の合計38頭の出品がありました。壮齡雄は、わずか2頭の出品でしたがどちらも肉付きが良く資質の高い壮齡豚らしいスケールを感じさせる種豚でしたが、力強い歩様の良さを見せた、香取市の小川渉さん(第4類、壮齡雄の部)の種豚を名誉賞としました。



名誉賞: 壮齡雄 No.28 香取市 小川渉氏

優等第1席: 壮齡雄 No.27 成田市 新井敬治氏

# 千葉県畜産総合研究センターの種雄豚に新たな豚が 3頭加わりました！ぜひご利用ください。

追加繫養種雄豚一覧表

	品種	性	子第	種第	生年月日	名号	父子第	母子第	生産地
1	D	雄	482	42218	H21.10.5	スター 811 ワイルド・ビッグ 6-987	009914	009786	(株)埼玉種畜牧場
2	W	雄	1637	39492	H21.10.10	ホーソーダブル09-14-148-2-2	000014	000148	当センター
3	W	雄	1673	39491	H21.10.16	ホーソーダブル09-15683-15685-10-2	015683	015685	当センター

1 デュロック種 (サイボク)



注文番号 482



**受付時間：**  
月曜日～金曜日  
8:30～17:15  
**注：**翌日の宅配・当日受  
取は、16:00まで。  
**土日、祝祭日**の配布は  
**宅配のみ**可能です。直  
近の平日に**事前に**申し  
込んでください。

**申込方法：**  
電話、FAXまたは  
Eメール

2 大ヨークシャー種 (ボウソウW)



注文番号 1637



**申込先：**  
千葉県畜産総合研究  
センター  
養豚養鶏研究室

**TEL：**  
043-445-4511

**FAX：**  
043-445-5447

**Eメール：**  
[buta@mz.pref.chiba.lg.jp](mailto:buta@mz.pref.chiba.lg.jp)

3 大ヨークシャー種 (ボウソウW)



注文番号 1673



**受取方法：**  
当センターでの受け渡し  
(8:30～17:15)  
あるいは、宅配(送料は  
着払い)となります。